

# 令和6年度第1回静岡県摂食障害対策推進協議会 議事録 概要版

## 1 開催概要

日時：令和6年8月16日（金）午後6時から7時30分

方法：オンライン

## 2 議題

- (1) 令和5年度摂食障害治療支援センター設置運営事業実施報告について
- (2) 令和6年度摂食障害治療支援センター設置運営事業実施計画について

## 3 内容

### 議題（1）令和5年度摂食障害治療支援センター設置運営事業実施報告について

- ・静岡県摂食障害治療支援拠点病院（浜松医科大学医学部附属病院（以下、「浜医大病院」））では、昨年度についても、例年どおり、摂食障害治療支援コーディネーターが主として電話で様々な相談を受けている。
- ・相談件数は昨年度221件。事業開始からの推移を見ると、初年度から4年目くらいまで、さらにコロナが終わる年度の2021年度くらいまでは件数が増加しており、そこから件数が減少している。他の拠点病院でも同様の傾向がみられる。
- ・コロナの時期は児童思春期の方の人数が増加した。コロナの影響がなかったと考えれば、事業開始から4～5年目がピークになって、あとは一昨年度、昨年度くらいで件数が落ち着いてきているのではないかと考えられる。大体180件程度の新規の相談がある。
- ・治療支援件数（入院件数）については、浜医大病院のみで60件。初診の患者数。最初の2年間は外来で予約制を敷いていなかったため、患者数が多かったが、3年目以降は予約制となり、近年は、初診患者数が大体50～60名くらいの患者数となっている。大部分が神経性やせ症。
- ・昨年度くらいから、回避・制限性食物摂取症の小児科から経由での相談件数が増えている。
- ・初診後の対応について、初めの頃は、まずは大学で治療した上で、他の病院に紹介は出来なかったが、事業開始後は初診治療後に他の病院に紹介できる患者数も5分の1くらいに増えている。初診後1ヵ月以内に他院に紹介している。
- ・協力病院における初診患者数と入院患者数について、病院全体で一定の傾向は見られないが、周りに患者の方を多く診る病院が無い場合は、その病院で多くの患者を診ていただいているのではないかと考えられる。沼津中央病院、県立こころの医療センター、藤枝駿府病院など。
- ・入院患者数について、どの病院においても一定数の患者を診ていただいている。

- ・治療体制を整えるために、会議や委員会を開催しており、管理委員会においては若い先生にも摂食障害を学ぶ機会があるかどうかを確認している。
- ・昨年度、東部地域の医療連携について、また、東部から照会される患者の方が BMI が低かったり、浜医大病院では東部の方を診る機会が少なく、どのように治療されているかが心配だったため、地域で救急を担ったり、中核の病院である順天堂大学医学部附属静岡病院の先生に事業の説明をさせていただき、本日参加いただいた経緯となる。東部の治療連携ができるよう、今年度の計画について別途ご相談させていただきたい。
- ・家族の支援について、ピアサポーター及び家族を迎えての家族教室を浜医大病院や静岡市精神保健福祉センター、浜松市精神保健福祉センターが共同で開催している。
- ・研修について、昨年度については教育委員会から依頼があり、県内の小中学校、高等学校、特別支援学校の養護教諭の方を対象に摂食障害に関する講義を実施した。
- ・モデル事業として開始して各都道府県との連携を考えたときに、治療体制の連携や付随した治療のやり方を教えてほしいということで、県外から本県に対して研修の依頼がある。福井県や石川県、地域の医師会に対して話す機会があった。
- ・その他小児科との合同の研究会、症例検討会を開催した。
- ・一般市民向けの普及啓発活動として、摂食障害フォーラムについて、一昨年度はオンライン開催だったが、昨年度は現地開催となったため 58 名と参加人数が少なくなった。市民向け講座はがんフォーラムなどとは違い一般市民が参加することが少ない。参加される方の属性は、多くが現場のスタッフや当事者。これを逆手に取って対人援助職への普及啓発及び家族当事者への支援としてやっていくのがいいのではないか。
- ・その他、当事者と家族の方にも、ピアサポーターのグループとして経験を話してもらったりしている。

## 議題（２）令和６年度摂食障害治療支援センター設置運営事業実施計画について

- ・今年度も引き続き、摂食障害治療支援コーディネーターが週３回、電話での相談を受ける。
- ・相談内容に関しては、初年度から３年間くらいは病気やその対応についての相談が半分以上だったが、最近は受診相談が８割を占めている。患者の方が受診先が分からないため教えてほしいという相談。
- ・治療に関して、精神科の専門医のプログラム、子どものこころ専門医のプログラムは引き続き実施する。子どものこころ専門医のプログラムは県立こども病院でも専門プログラムを持っている。精神科の専門医のプログラムは、浜医大病院と

協力病院に専門医が勤めているため、摂食障害の治療、外来、入院に関しても引き続き研修をしていただけるものと思っている。子どものこころ専門医のプログラムは浜医大病院のプログラムでは大学に3名、天竜病院に1名。天竜病院も摂食障害を少し診始めている。

- ・ 県東部の治療連携体制について精神科だけではなく小児科とどう連携するのか、どういった状況なのか把握するところから始めるべきと考える。
- ・ 県東部に関しては、順天堂大学医学部附属静岡病院の先生や沼津中央病院の先生とも相談させていただいて、地域の小児科医会とも連携させていただきたい。小児科で摂食障害の患者の方を診るのは大変だという話も聞く。どのように連携して患者の方を治療していくのか、どのように研修で治療レベルを上げていくのか相談させていただきたいため、治療連携検討会という形でここではあげている。また相談させてほしい。
- ・ 研修は全7回を予定。産業医向け研修会、職場のメンタルヘルス担当者向けの研修会、精神科医、小児科医、コメディカルが合同で参加する講演会をオンラインで開催。
- ・ 小研究会は2回開催。それぞれ県東部の症例と県西部の症例を扱う。中部が抜けているのはマンパワーの問題。Web形式で開催する予定。2例の症例を提示してその症例を基に、取組や実際にそういった症例に対してどのような連携をすれば良いか話し合う場として症例検討会を2回開催する。
- ・ 普及啓発に関しても例年どおり、摂食障害フォーラムを開催。今年度は沼津市のプラサヴェルデで開催。医者はあまり参加しないが、病院や学校の先生、家族支援者を対象に開催。内容も対象者向けにしていきたい。
- ・ ピアサポーターの方を養成するプログラムについて、自分の経験だけでインターネット上でサポートされている方もいるが、医学的なあるいはガイドラインに沿った背景を分かった上でピアサポートできるピアサポーターを育てて、講演会や研修会に参加いただき、当事者や支援者の研修に参加いただくことを予定している。

## 意見交換

- ・ 聖隷三方原病院では、今まで摂食障害の治療に関して診てもらっていた総合診療内科がなくなったことで、今後即時対応が難しくなるため、しばらくは浜医大病院に対応してもらうことになると思う。
- ・ 浜医大病院では小児科と精神科との間で摂食障害の患者情報の連携を行っている。これをより広い形で県内でもやっていければ、患者の方を待たせずにスムーズに対応できると思うので是非そういった連携をお願いしたい。
- ・ 地域間の患者の方の移動や病院間の連携が上手くいっているかどうか、各病院に

において、地域外の遠方から患者の方を見つけていないか、患者の方を居住地域に戻せているかどうかを把握するための調査回答に協力いただきたい。

- 摂食障害の患者への対応について迷った場合は、拠点病院に紹介でも良いので相談してほしい。そこで割り振りを相談させてもらうので、随時各病院からご相談いただきたい。
- 東部地域における摂食障害治療の状況について、今後こういった形で有機的に連携ができるか、こういった研修が効果的なのか、小児科や精神科の先生方と意見を交わしていきたい。